

## プール学院ミッションステートメント

プール学院は2009年6月創立130周年を迎え、2010年には短期大学を端緒とする大学教育開始60周年を迎えた。この長い歴史を貫いて守られてきた理念を思い起こし、プール学院が存在することの意味を改めて確認し「21世紀に輝くプール学院」として何を目指し、世界そして地域社会に教育を通じて、どのように貢献していくかが問われている。決意をもって以下の宣言を行いプール学院の使命を明確にする。

### 建学の理念

プール学院は近代日本の黎明期である明治12年、女子の教育機関として出発をした。英国国教会に所属する宣教団体によって、日本の女子にキリスト教を基軸とする宗教的情操と高い文化的教養を身に付けさせるために創立され今日に至っている。その建学の理念は寄付行為前文に明らかである。そこには次のように記されている。「**終始一貫日本聖公会所属の教育施設として〈神の栄光のために〉キリスト教の精神を根底とする霊的人格教育を行ってきた。これは将来においても永久に守られるべきものである。**」この前文において、プール学院の教育研究の営みはすべて**〈神の栄光のために〉**行われることが明示されている。また第2章、「目的および設置する学校」において「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、**キリスト教主義による教育事業を行い、人類の福祉に貢献することを目的とする**」と学院の使命を明確にしている。キリスト教の精神を根底とする霊的人格教育とは、いわゆるヒューマニズムに基づく人間教育を超えて、神の前に一人立つ主体の形成を以って、人類社会に貢献することを目指す教育のことである。このような価値観は現実社会の支配的論理、風潮に与することなく、イエス・キリストの生涯に示されている「**愛と奉仕**」を模範として生き、「**真理はあなたたちを自由にする**」という聖書の言葉を根拠にして学ぶことを要請する。プール学院の教育理念が、ここに基盤を置いていることをまず確認しなければならない。このことは時として、高度にシステム化され、合理化された現実社会の経営的視点から見れば、非現実的で不合理に見えることがあることも否定できない。学校経営が昨今の新国家主義的教育改革や新自由主義経済に基づく競争環境の中で、大きく変化することを求められている状況下にあってはなおさらである。加えて本学院のような霊的人格教育を標榜する教育は、数値化される学校評価の対象とはなりにくい面があることも事実であり、こういう宗教的教養教育を目指す理念そのものが、現実社会に受容されにくいこともある。しかし130年を超える、プール学院の歴史を紐解けば、いかなる困難な状況下の学校経営にあっても「キリスト教の精神を根底とする霊的人格教育」への熱意と実践こそが、あらゆる窮状を乗り越え、今日を迎えていることも確かなことである。今後いかなる時代、いかなる環境の中にあっても、この建学の志を失って学院が存続することはありえない。プール学院のミッションは「キリスト教の精神を根底とする霊的人格教育」をもって、世界に奉仕するという一点に収斂するのである。

## 霊的人格教育の成立

### 1. プール学院の霊的教育は毎日の礼拝にその根拠を持つ

プール学院は創立以来、神への祈りを持って教育を開始することを学校の指針としてきた。礼拝という行為を通じて、この学院で学び、働くことの意味を確認しなければならない。学院の構成員はすべてこの礼拝に招かれている。同時に礼拝を守る責任を負う。プール学院は「祈る」学校であることを忘れてはならない。

### 2. プール学院の霊的教育は教職員の人格を通じて行なわれる

プール学院に働く教職員は生徒、学生との出会いの中で共に神に愛される存在としての教育的、人格的交わりを行う。教職員の高い人格的資質が生徒、学生を真に学びつつ生きる存在へと変革する。教職員は自ら人格の完成に努めなければならない。

### 3. プール学院の霊的教育は生徒・学生中心の教育〈カリキュラム〉を要請する

学校の中心は生徒、学生であることを強く認識する。いかなる存在も神から愛されているかけがえのない存在であることを決して忘れてはならない。そのことを前提として生徒学生への厳しい教育指導は成立する。

### 4. プール学院の霊的教育は保護者や地域社会・教会との協働によって成立する

社会的存在として生徒、学生を成長させるために、保護者と地域の協力は不可欠である。プール学院のキリスト教学校としての教育姿勢を保護者と地域に絶えず伝達していかなければならない。学校は保護者また地域と協働していくために最大限の努力をする。また霊的教育のために教会の協力を求めなければならない。

## 目指す人間像

プール学院は建学の理念に基づき目指すべき〈神の栄光のために〉生きる人間像を「愛と奉仕」をモットーに次のように定める

1. グローバルな視野に立ち、愛と教養を持って社会に貢献できる人間
2. 精神的なもの、目に見えないものに価値を置き他者に奉仕できる人間
3. 困難や逆境に負けない忍耐力を持った問題解決のできる人間

## 組織理念

プール学院は組織運営の理念を、聖書のコリントの信徒への手紙Ⅰ、第12章に展開されている「キリストのからだ」についての表現に見出だす。

「だから多くの部分があっても一つの体なのです」20節

「それで体に分裂が起こらず、互いに配慮し合っています」25節

「一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです」 26節

「あなた方はキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」 27節

これらの文言に示されたキリストを頭とする有機的な、配慮しあう組織こそプール学院の組織理念でなければならない。

それぞれの学校はプール学院というキリストを中心とする一つのからだとして支え合わなければならない、それぞれ働き人も一つのからだを構成する大切な部分として尊重されなければならない。プール学院はこの組織理念に基づいて組織運営を行なっていく。

## 経 営 理 念

### 未来に輝く

教育そのものが未来を創造する働きであることを認識し、希望を持って教育に当たる

### 協働する組織

定めた組織理念に基づき、使命を持った教育集団として教育職、事務職共に協働する

### いのちへの畏敬

かけがえのない生徒、学生のいのちに畏敬を持って向かい合い、尊厳ある存在となる

### 質の高い教育

生徒、学生の満足する、質の高い教育を実践するために研修、研究を怠ら行なう

### 変革への努力

新しい時代に対応する、新しい教育を実践するため、絶えず現状を変革する意欲を持つ

### 人材の育成

教育の成否はすべて働き人の情熱と意欲にある。これを持つ人材育成を行なう

### 法令順守

自己組織内でしか通用しない論理、精神構造を改革し、社会に説明可能な運営を行なう

### 危機管理

組織維持、自己保存的傾向から問題への対応に、遅れを生じさせない管理体制をつくる

### 社会貢献

学校行事の公開、ボランティア活動などを通じ地域を始め社会への積極的貢献を行なう

### 強い財務体質

長期的展望に立った教育の展開のために強い財務体質を作ることを優先課題とする

## ミ ッ シ ョ ン の 遂 行

プール学院は「祈る学校」として、寄付行為に定められた建学の理念を守り、神の愛してやまない生徒、学生の成長を支援するために、与えられたミッション（使命）を遂行することを誓う。